

### 3 研究のまとめ

#### (1) 研究の成果

本研究では、表現活動に生かすため、様々な鑑賞活動を取り入れた題材構成の工夫について研究を進めてきました。題材構成の工夫を行うことで、生活や社会の中の形や色と豊かに関わる資質・能力が育ち、児童が光の効果や特徴を生かした造形表現を工夫することができたか、その有効性を検証しました。表現の前後に鑑賞活動を取り入れることについて、鑑賞活動を表現活動に生かすことができる、自分とは違う表現の仕方を知ることができるなど、今後の表現活動へつなげようとする効果がありました。

また、本研究では、生活や社会の中で形や色などの造形的な要素の役割に気付いたり、造形表現を生かして生活を楽しく美しくしようとしたりすることも目指しました。題材全体を通して、高齢者を元気づけるためにという思いをもたせ、児童の作品を校外に展示し、高齢者や施設の関係者の方から、子供達の絵に対する評価を頂きました。展示場所を変える、相手意識をもたせる、という些細な手立てでしたが、児童にとって図画工作科の学習が生活や社会の中で役立っているという実感が持てたのではないかと考えます。

#### (2) 研究の課題

6時間の題材計画の中に、鑑賞活動を仕組むことは、効果を生む反面、表現活動の時間が制約されてしまうため、児童に十分な表現活動の時間が確保できたとは言い難いところです。表現活動を確保した上で鑑賞活動を仕組む場合には、児童の鑑賞の能力の向上が必要不可欠になると考えられます。型にはまった対話活動ではなく、教師が児童のつぶやきを拾ったり、自然に対話活動を繰り広げられる場の設定を工夫したりすること、また、日々の図画工作科の授業の中で鑑賞活動が自然の流れでできるような手立ての工夫が重要だと考えます。

その際、鑑賞する際の視点、つまり造形的な見方・考え方が自然とできるように、日頃から鑑賞活動に慣れさせる活動を仕組んだり、ワークシートをループリックとリンクさせるような工夫をしたりと、鑑賞活動の在り方について今後も探っていきたいと考えます。